

「記憶と学習」

1. 記憶と学習の定義(心理学的立場)

記憶と学習

両者は非常に密接に関連, 厳密に区別することは難しい場合もある

学習

経験がのちの行動に影響するようなかたちで「こころ」の中味に比較的永続的な変化を生じさせること

知識構造に比較的永続的な変化を生じさせること(認知科学的立場)

※学習が成立するためには記憶が必要

1

記憶

(広義) 経験の効果を時間を越えて存続させるもの

(狭義) 「情報を蓄える」(受動的)

「おぼえる」・「思い出す」(意図や意識を伴う)

3つの側面: 記憶機能, 記憶システム, 記憶情報

2

2. 記憶

記憶の過程:

記銘(符号化), 保持(貯蔵), 想起(検索)

短期記憶(一次記憶)

意識として心の中に留めている内容

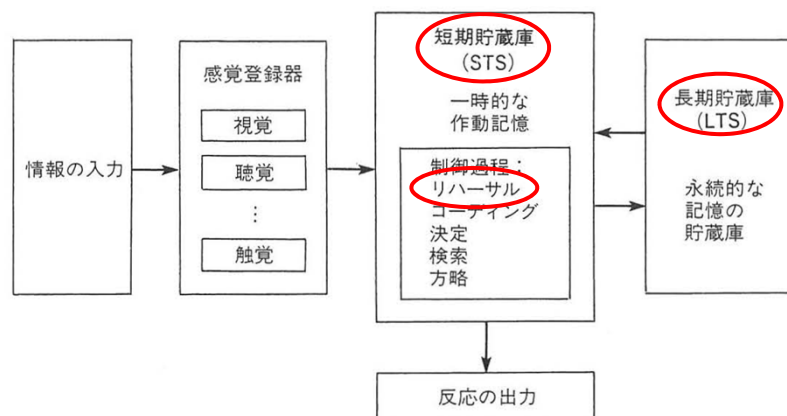
長期記憶(二次記憶)

必要に応じて意識化されたり, 無意識的な行動として現れたりする過去の膨大な記憶

3

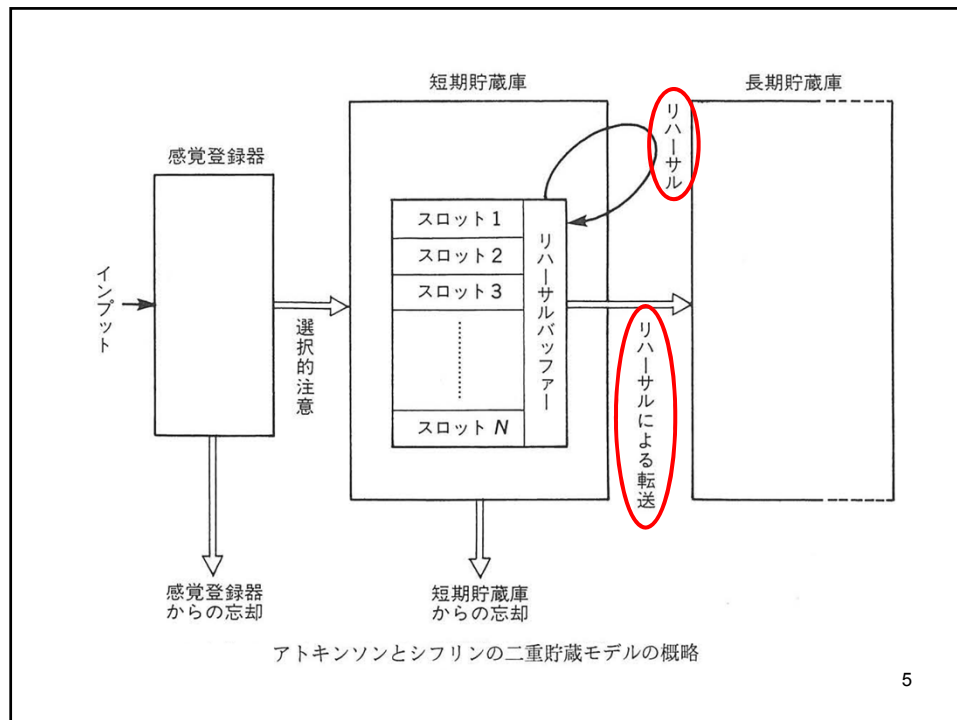
2貯蔵庫モデル

短期貯蔵庫と長期貯蔵庫



二重貯蔵モデル

4



リハーサル

短期記憶の容量は小さく、リハーサルしていないと減衰する

しかし、リハーサルを繰り返した情報は長期記憶となる

維持リハーサル

短期貯蔵庫にとどめておくリハーサル

精緻化リハーサル

長期貯蔵庫への転送の原因となるリハーサル
(関連付けやイメージ化)

「マジカルナンバー7±2」

短期記憶の容量は、項目あたりの情報量によらず、7項目程度

宣言的記憶

さまざまな「事実」に関する記憶

手続き的記憶

作業を行うときに参照する「やり方」に関する記憶

意味記憶

単語の意味や概念などに関する記憶, 一般的な記憶

エピソード記憶

特定の時間や場所などの文脈情報を含む, 個人が過去に経験した出来事に関する記憶

7

作動記憶(作業記憶)

短期記憶の概念を発展させたもの

認知過程での情報の処理機能を重視する

記憶以外の認知機能との関わりを捉えようとする

8

